

RI検査の説明確認書

RI検査とは、 γ (ガンマ)線という放射線を放出する薬(放射性医薬品)を体内に入れ、体外に放出する γ 線をカメラで測定して写真にします。測定時間は15分～60分ぐらいかかり、検査の種類によって異なります。薬は静脈注射・カプセルを飲む・空気と一緒に吸うもの等それぞれ異なります。

○ 放射性医薬品

放射性医薬品は、体の外からは見えない病気のところや臓器の状態を、放射線という信号を出して知らせてくれる薬剤です。

このくすりの特徴は、放射線を放出するアイソトープを含んでいることです。注射された少量の放射性医薬品は、外部から見えない病気のところや臓器の状態を、放射線という信号を出して知らせてくれます。

多くの場合、注射されたくすりは、一度は目的の臓器や器官に集まりますが、早いものでは数時間で、遅くても数日で信号(放射線)が弱くなって、やがてなくなってしまいます。これは、薬剤が体から排泄されたり、放射線を出すアイソトープそのものの能力が弱くなってしまからです。

○ RI検査の特徴

他の検査と異なり、形や大きさもある程度わかりますが、主に臓器の働き(機能)を調べる為に行われます。機能を調べることにより、今後の治療方針を決めたり、治療が順調に進んでいるかを確認することが出来ます。

○ RI検査の種類

心筋シンチ:心筋の血流を見る検査

心筋負荷シンチ:運動や薬物により心筋虚血を誘発する検査

脳血流シンチ:脳の血流を見る検査

ガリウムシンチ:全身の炎症を見る検査

その他に唾液腺・甲状腺・肺・肝臓・腎臓などがあり、使用する薬もそれぞれ異なります。

○ 副作用の頻度

放射性医薬品による副作用はごくまれで、最近の5年間の調査で、10万人あたりに2.1～2.5人と非常に少ないのが特徴です。

負荷検査として同時に使用される薬剤による副作用が起きる場合があります。

胸痛 胸苦しさ、発熱、頭痛、めまい、不整脈、吐気、発赤、頻脈、呼吸困難、高血圧